

ソフトウェアテストの次の10年



JaSST'12 東京 クロージングパネル ポジショントーク

2012/1/26(木)

電気通信大学 / ASTER(ソフトウェアテスト技術振興協会)
にし やすはる

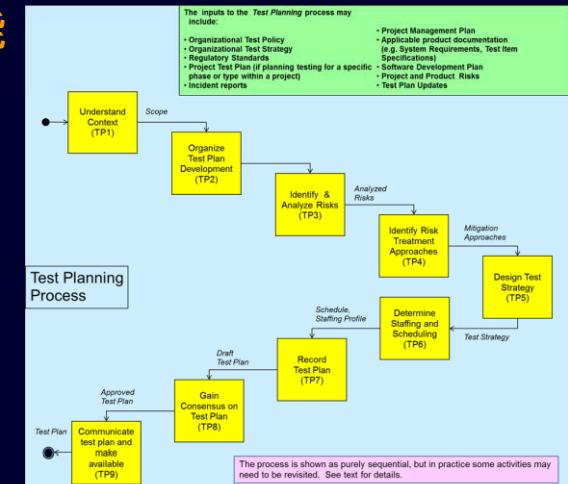
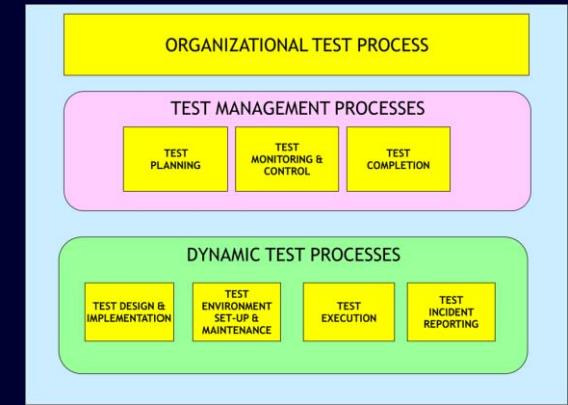
ソフトウェア開発の次の10年の進化のポイント

- ちゃんとつくる
 - 多品種化、大規模化、複雑化、高安全化、アカウンタビリティ化、
- はやくつくる
 - スピード化、少数精銳化
- 走りながらつくる
 - イタラティブ化、アジャイル化、クラウド化
- 人生をつくる
 - SNS、スマートフォン、Wii Fit/Kinnect、癒やし系介護ロボット



ISO/IEC CD 29119 (/ WD 33063)

- ISO/IEC JTC1 SC7で審議中の
テストプロセスの国際規格
 - 29119: テストプロセスの規格
 - » Part 1: コンセプト / P2: プロセス / P3: 文書 / P4: 技法
 - » 現在DIS段階として投票中
 - 33063: テストプロセス改善の規格
 - » 29119 + α と 15504/33Kシリーズがベース
 - » 現在CD投票に向けて草案策定中
 - 特徴
 - » ドメインフリー: あらゆる規模・分野・パラダイムに適用可能
 - » ジェネリック: テストレベルやテストタイプを抽象化したプロセスモデル
 - » リスクベースド: リスクベースドテストアプローチを採用
 - » 組織的: 組織内で合意されたテストポリシーやテスト戦略が必要
 - » ヘビーウェイト: かなりのトレーサビリティ作業が必要かも



ソフトウェアテストの次の10年の進化

- ちゃんとつくる：テストそのものが「ものづくり」になる
 - ソフトウェアテスト・エンジニアリング
 - » テスト開発方法論：テスト要求分析&テストアーキテクチャ設計の確立
 - » テストのプロダクトライン（プロダクトラインのテストではない）
 - » テストプロセス・テストプロセス改善
 - » テストにおけるDSL（ドメイン特化言語）
- はやすくつくる：間違えないようにつくる
 - バグパターンベースドテスト設計 / 認知科学との融合（開発者の間違えやすさ）
 - テストと開発の融合（Wモデル）
- 走りながらつくる：テストを完全に自動化して人間の知恵を加える
 - 探索型でスマートなモデルベースドテスト
- 人生をつくる：人間の感覚や感情、価値観を品質として取り扱う
 - インタラクティブ・マルチメディア・ソーシャル・コンテンツの品質評価

未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ
The best way to predict the future is to invent it



電気通信大学 / ASTER
にし やすはる